これからの広報こうしのあり方

昨年10月号に掲載した「広報こうしについてあなたのご意見を聞かせてください」に対し、市民の皆さんからさまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。

読み手の立場からの率直なご意見は、大変貴重なアドバイスとなりました。新しい年を迎え、今後の広報紙のあり方を皆さんのご意見に沿って考えていきます。

■市民の目から見た「広報こうし」

お寄せいただいたご意見を集計すると、次のような結果になりました。

①良いところ　4件
②悪いところ　3件
③新しい企画の要望　7件
④既存企画への要望　4件
⑤欠かさず見るコーナー　6件
⑥その他　1件

これらのご意見の概要は次のとおりです。

①高齢者でも理解できる、表紙写真や毎月掲載のコーナーが楽しみなど
②文字が小さい、特定の団体・スポーツなどの同じ記事が目立つなど
③市民の投稿コーナーや、各課の業務や行政用語の解説コーナーの新設など
④毎月掲載のコーナーのリニューアルや内容の充実化など
⑤毎月掲載のコーナーの市ホームページ上での個別活用

■市民が求める広報紙とは？

これらの意見結果から、市民の皆さんは広報紙に行政情報やイベント情報をはじめとした「役立つ情報」を求めていること、「市民の活躍や話題」を楽しみにしていること、「市民参加型」のコーナーを希望していること、などが分かりました。

また、書き手の意図がきちんと伝えきれていない部分があることも分かりました。

広報紙は限られた紙面で、より多くの情報を見やすく分かりやすく伝える義務があります。皆さんの要望のすべてに応えていくことは、ときに困難な場合があります。しかし、一人でも多くの皆さんのお役に立てるよう、これからも必要とされる広報紙のあり方を検討していきます。皆さんの思いが反映された双方向性のある広報紙、その姿を求めて皆さんと一緒に取り組んでいきます。

問い合わせ先　企画課 情報広報班（合志庁舎）　☎248－1977

人権よもやま話　冬号

人権擁護委員
坂井　眞壽子

阿蘇大津人権擁護委員協議会の設立と人権キャラクターの紹介

熊本地方法務局の出先機関である阿蘇支局と大津出張所の統廃合を受け、10月12日、合志市を含む『2市5町3村』の関係市町村が一つの協議会として設立され、『阿蘇大津人権擁護委員協議会』が再編成されました。

現在、阿蘇地区と、合志市が所属する大津地区の人権擁護委員約50人で相談を受けたり、さまざまな啓発活動を行なっています。

そのような中で、動く人権マスコットとしていつも親しまれ、愛されているキャラクターに「人KENまもる君」と「人KENあゆみちゃん」がいます。このキャラクターのデザインは、「アンパンマン」で有名な〝やなせたかし〟さんです。イベント会場にキャラクターが登場すると、子どもたちは大喜び。たちまち、まもる君とあゆみちゃんの周りには、子どもたちが集まってきます。先日の菊陽町さんさん公園で行なわれた「杉並フェスタ」や、合志市南ヶ丘小学校での「人権の花」運動のイベント会場でも大人気でした。

このような人権に関するイベントでは、「人権ってなあに?」と問いかけながら、人権とはみんなが幸せに生きていくために必要な権利であることを訴えていきます。

また、この権利は日常の思いやりの心によって守られているものであり、子どもたちに対しては、植物を育てることを通して「命を大切にすること」「みんなと仲良くすること」などの大切さを伝えています。

「人権」とは、日常生活の中でお互いを認め、尊重し合うことによって守られていくものではないでしょうか。

子どもたちに人気の
「人KENまもる君」と「人KENあゆみちゃん」

素敵な人生　素敵なパートナー

合志市男女共同参画
推進懇話会委員
守田 丈晴

皆さん、こんにちは!

今年度から合志市男女共同参画推進懇話会委員になりました守田と申します。どうぞよろしくお願します。

皆さんは『男女共同参画』という言葉を聞いて、何を連想されるでしょうか。正直に言いますと、わたしも最初はよく理解できていませんでした。男女が共同で参画する（できる）社会？……うーん……言葉の持つイメージはなんとなく分かるものの、まだ頭の中のモヤモヤが晴れません。こういう時には文明の利器であるパソコンに頼るのが一番です（頼りすぎてもいけませんが……）。インターネットで検索すること30分。ありました。ありました。内閣府男女共同参画局のホームページにいいことが書いてあります。そこには、『男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会』と書いてありました。「うん、納得!」とても分かり易い表現です。

意欲や能力があり、そのための努力を惜しまない人を、「男だから」「女だから」という理由だけで区別することがあるとしたらそれは悲しいことですね。

話は変わりますが、わたしと妻は趣味でロードバイク（自転車）に乗っています。途中、行き交うサイクリストと必ずあいさつをし合うのですが（それがマナーでもあります）、共通の趣味を持つというだけで顔も名前も知らない者同士の心が通い合う瞬間です。とても気持ちがよいものです。同じように、男性も女性も性別に関係無く、お互いを尊重し人間個々人として心が通い合えるような関係こそが、成熟した社会なのだと思います。

さて、皆さんはどう思われますか？

学校紹介

平成22年12月1日現在

～西合志中央小学校～

児童数…435人　職員数…32人
校　長…岩根　浩

本年度で開校136年目を迎える歴史と伝統のある学校です

校訓
「健康」（命を大切にする子ども）
「工夫」（よく考え、進んで学ぶ子ども）
「協同」（認め合い、励まし合い、高め合う子ども）

教育目標　「夢をもち、自ら求め学ぶ、心豊かな子どもの育成」

本校校歌３番の歌詞「健康工夫協同の教え一途に勤しみて明日の日本を築きゆく我が学舎に栄えあり」にうたわれている「校訓」を昨年度、校舎の正面に掲げました。校訓は、全校集会時などで子どもたちに語りかけています。

「国語力の育成と教育環境づくり」を図り、学校教育目標の具現化を推進しています。

◇学校給食・食育推進校研究発表会の開催

本校は平成21・22年度、熊本県教育委員会指定「学校給食・食育推進校」として「食」に関する系統的指導の推進や学校給食を生きた教材として活用する工夫、家庭・地域との連携などに取り組んできました。

11月12日に２年間の研究の成果を発表しました。当日は、多数の先生たちが来校し、子どもたちの学習活動や給食の様子を参観されました。また分科会では、食育について活発な協議が行なわれました。今後も食育の充実を図っていきたいと考えています。

公開授業で元気に発表

◇素敵なランチルーム

本校の自慢は、ランチルームです。校舎の管理棟と低学年棟の間に設けられています。一学年が一緒に給食を食べることができます。各テーブルに10人ぐらいが座り、みんなで仲良く給食を食べています。ランチルームの壁には食育に関するいろいろなパネルが張ってあり、食育を身近に考えることができます。

また、ランチルームを囲むスロープには、本校の歴史を振り返る写真が掲示されています。社会科の学習などで活用しています。

ランチルームで楽しい給食